



スマトラ沖地震 復興支援の一助に

AMD Aに義援金託す

【ジャカルタ19日喜多功】岡山経済同友会のインドネシア視察団は十九日、岡山を出発し、最初の訪問地の首都ジャカルタに到着。同市内のホテルで、今月十二日に発生したスマトラ島沖地震被災者に対する岡山同友会の義援金五十万円を、国際医療ボランティア・AMD A(本部・岡山市)の現地活動スタッフに寄付した。

視察団は越宗孝昌代表幹事(山陽新聞社社長)、萩原邦章国際委員長(萩原工業社長)ら二十人。越宗代表幹事が「インドネシアには岡山からの進出企業も多く、被害拡大を懸念している。復興支援の一助にしてほしい」

スマトラ島沖地震被災者への義援金をAMD Aの現地スタッフに寄託する越宗代表幹事(左)ら岡山経済同友会の視察団

と、中嶋秀昭AMD Aチエ事業統括に義援金五十万円と、被災地の子どもたち向けの絵本三十冊を手渡した。

スマトラ島沖では十二日、マグニチュード8.4の地震が発生。AMD Aは二〇〇五年五月からアチェ津波復興支援活動が続けており、今回の地震では医師ら計五人を派遣している。

岡山同友会のインドネシア視察は、岡山からの

進出企業の現状や観光地視察が目的。ジャカルタ郊外にある萩原工業の現地法人を訪問し、海外で事業展開するポイントなどを学ぶほか、観光の島として知られるバリ島に行き、岡山への誘客推進に向けたヒントを探る。二十四日に帰国する予定。